

第 97 回 理事会・拡大執行委員会 議事録

日時：2020年3月7日（土曜日）10時～17時

場所：慶應義塾大学信濃町キャンパス総合医科学研究棟1階ラウンジ

【出席者 26名】※敬称略

柚崎 通介（会長）、加藤 忠史（副会長）、磯村 宜和（庶務理事）、大塚 稔久（副庶務理事／大会委員会委員長）、山中 宏二（会計理事）、岩坪 威（理事）、大木 研一（理事）、岡本 仁（理事／第42回大会長）、奥山 輝大（理事）、上口 裕之（機関誌理事／NSR委員会委員長）、林（高木） 朗子（理事）、林 康紀（理事／脳科学辞典編集委員会委員長）、尾藤 晴彦（理事／第44回大会長／将来計画委員会 日中韓WG委員長）、藤山 文乃（理事）、渡辺 雅彦（理事）、磯田 昌岐（奨励賞選考委員会委員長）、宇賀 貴紀（動物実験委員会委員（竹村 文 委員長代理））、奥村 哲（ブレインビー委員会委員長）、尾崎 紀夫（臨床・関連学会連携委員会委員長）、掛川 渉（ホームページ委員会委員長）、合田 裕紀子（国際連携委員会委員長）、Thomas J. McHugh（将来計画委員会 機関誌WG委員長）、古屋敷 智之（神経科学ニュース編集委員会委員長）、松田 哲也（アドボカシー委員会委員長／利益相反委員会委員長）、吉本 潤一郎（情報基盤整備委員会委員長）、渡部 文子（ダイバーシティ対応委員会委員長）

【Web出席者 7名】※敬称略

宮川 剛（副庶務理事／将来計画委員会委員長）、山中 章弘（広報理事）、大隅 典子（理事）、岡野 栄之（理事）、北澤 茂（理事／第43回大会長）、銅谷 賢治（理事）、松元 健二（アウトリーチ委員会委員長／産学連携推進委員会委員長）

【欠席者 9名】※敬称略

岡部 繁男（副会長）、笠井 清登（理事）、木山 博資（理事）、定藤 規弘（理事）、竹村 文（動物実験委員会委員長）、花川 隆（倫理委員会委員長）、平井 宏和（将来計画委員会 学会体制WG委員長）、宮田 麻理子（生物科学連合担当委員会委員長）、中村 克樹（神経科学分野における霊長類を対象とする実験ガイドラインの策定に関する専門委員会委員長）

【報告事項】

- 1) 磯村宜和庶務理事から会員構成や入退会者数、協賛後援名義に関する報告があった。会員数が減少傾向であることから、今後も注意深く動向を見る必要があることが指摘された。
- 2) NEURO2019（2019年新潟）について、岡本仁大会長から決算報告が行われた。新潟県・市から助成を受けた分の予算を参加者還元やシンポへの補助金に充て、最終的に収支はほぼ一致したとの結果が示された。
- 3) 第43回大会（2020年神戸）に関し、北澤茂大会長より準備状況の報告があった。COVID-19の影響については、現時点では従来と同様の開催を予定しているが、今後の状況の変化に応じ、安全かつ効果的な開催方法について検討するとの方針が示された。
- 4) 第44回大会（2021年東京）について、尾藤晴彦大会長から準備状況の報告があった。大会組織と大

会テーマが紹介された他、大会運営事務局はA E企画に決まったことが報告された。

- 5) 第 45 回大会 (2022 年沖縄) は、第 63 回日本神経化学学会大会、ならびに第 32 回日本神経回路学会大会との合同開催で、NEURO2022 となったことが銅谷賢治大会長から報告された。また、6 月に大会運営事務局のコンペと現地視察を、また、2020 年 7 月の神戸大会の会期中に実行委員会を開催する予定が示された。
- 6) 上口裕之 NSR 編集主幹から投稿数や採択率に関する報告を受けた。引き続き学会として NSR の資産価値を高めるための方策を検討していくことを確認した。
- 7) 奨励賞選考委員会の磯田昌岐委員長から選考結果の報告があった他、規程の改定と「募集のお知らせ」の変更に関する提案があり、承認された。また、これまで推薦状は申請書の一部に組み込まれており、申請者がまとめて提出していたが、推薦状は推薦者本人が、申請書とは別に送る方がよいという意見が出された。他に、申請書の様式には、代表的な論文に、その論文が掲載された論文誌の Impact Factor (IF) を記載するよう書かれているが、IF の記載は不要なのではとの指摘があった。これら 2 つの提案が承認され、次回の募集時から変更するものとした。
- 8) ジョセフ・アルトマン記念発達神経科学賞について、磯村宜和庶務理事より、本年の受賞者は選考作業中であるとの報告が行われた他、今期で委員の半数が入れ替わる予定である点の説明があった。

【審議事項】

- 1) 学会本体会計 2019 年決算案および NSR 会計 2019 年度暫定決算案が承認された (資料 A、B)。
- 2) 学会本体会計 2020 年予算案、NSR 会計 2020 年予算案が承認された (資料 C、D)。
- 3) 第 46 回 (2023 年) の年次大会について、会場を仙台とすることを決定した。また、大会長は執行委員会から小林和人先生 (福島県立医科大学) が推薦され、承認された。

【各委員会・WG の活動予定報告】

- 1) 将来計画委員会の宮川剛委員長から、委員会の目標として、1. 脳科学の大型プロジェクトの検討、2. 学会横断的なイシューへの対応、3. ランチョン討論会の企画・準備・開催、が示された。また、本委員会の下に置かれている 4. 機関紙ワーキンググループ、5. 日中韓ワーキンググループ、6. 学会体制ワーキンググループ、の連携と取りまとめに協力する方針が示された。
- 2) 機関紙ワーキンググループの Thomas McHugh 委員長から、Elsevier との契約更改が近いことから、Neuroscience Research の今後の在り方について検討する目標が述べられた。
- 3) CJK ワーキンググループの尾藤晴彦委員長から、第 44 回大会と併催となる第 1 回 CJK 大会の開催準備を含めた活動計画が示された。
- 4) 学会体制ワーキンググループの平井宏和委員長は欠席であったため、柚崎会長による資料の代読が行われた他、同ワーキンググループに付託されている事項 (評議員制度の検討やパネル制度の改定を含む会則改定等) の説明が行われた。
- 5) 大会委員会の大塚稔久委員長から、継続的に年次大会の開催を支援するため、①スポンサー獲得、②ガイドライン策定などを行う予定であるとの報告があった。
- 6) 国際連携委員会について、合田裕紀子委員長から、1. 若手研究者の海外経験の促進、2. 海外研究者との連携の促進、3. 日本の研究者の visibility の向上を目標とするとの説明があった。

- 7) 情報基盤整備委員会の吉本潤一郎委員長から、会員情報管理システムと大会情報システムの大幅刷新に関する説明が行われ、導入に伴う費用とスケジュールが承認された。
- 8) 神経科学ニュース編集委員会の古屋敷智之委員長から、企画・編集業務の担当に加え、ページ数や内容の整理といった改善策、ホームページ委員会との連携推進、新企画の立案、広告掲載社の勧誘、今後のニュースの在り方の検討（内容、紙媒体、発行回数）などの目標が示された。
- 9) ホームページ委員会の掛川渉委員長から、1. リニューアルした新ホームページの公開、2. 企画・編集業務の実施、3. 他委員会との連携推進、4. 新企画の立ち上げを目標とする旨の説明があった。
- 10) アウトリーチ委員会の松元健二委員長から、1. 神経科学研究への新規参入を促す取り組み（市民公開講座の実施、年次大会への高校生への参加・発表の促進、神経科学リテラシーのさらなる向上）、2. 学術界と産業界の間での相互活動を促す取り組み、3. 科学コミュニケーションガイドラインの改定などの目標が示された。
- 11) 産学連携委員会の松元健二委員長から、1. 応用脳科学コンソーシアムの支援、2. 産学連携シンポジウムの開催等の計画が示された。
- 12) アドボカシー委員会の松田哲也委員長から、学会－省庁、学会－政界、学会－経済界のそれぞれのつなぎ役を行うことを目的とすることや、活動内容を学会一般会員にフィードバックする方針の説明があった。
- 13) 利益相反委員会の松田哲也委員長から、日本神経科学学会 COI 基本指針に基づき、必要に応じて学会事業や会員活動について調査報告すること、また適宜基本指針の見直しを行う予定が示された。
- 14) 脳科学辞典編集委員会の林康紀委員長から、編集委員の新体制の紹介があった他、執筆されていない用語の完成や新たな用語の選定、広告掲載に関する検討、ならびに書籍化等を検討していく方針が示された。
- 15) 臨床・関連学会連携委員会の尾崎紀夫委員長から、他学会との連携シンポジウムを今後も継続して開催していく計画であることと、他学会員の神経科学学会への入会・大会参加を促進する方策が述べられた。
- 16) ダイバーシティ対応委員会の渡部文子委員長から、年次大会でのランチオンセミナー企画等を含めた活動計画が示された。また、男女共同参画推進の観点から、lecture、シンポジスト、座長、賞、選挙などにおいて、女性比率の指標として会員の女性比率と同程度にすること、賞の募集時にも明記することが提案された。
- 17) 倫理委員会の花川隆委員長はご欠席であったため、柚崎会長により資料の代読が行われた。「ヒト脳機能の非侵襲的研究」の倫理問題等に関する指針の改定を行ったことを周知する、軍事的な用途に用いられる研究に関するガイドラインのたたき台を作成する、などの目標が示された。
- 18) 動物実験委員会は、欠席であった竹村文委員長に代わり、宇賀貴紀委員が代理で報告を行った。動物実験を行っている研究者、関係者との連携および情報共有につとめ、国内外から日本の動物実験が適切であると判断されるように活動していく方針が示された。
- 19) ブレインビー委員会の奥村哲委員長から、ブレインビーの準備状況と計画の説明があった。年々予選大会への参加者が増えていることなどが報告された。しかしそれに伴い委員も必要になるため、運営マニュアルの整備や委員の公募を行う予定であるとの説明があった。
- 20) 生物科学連合担当委員会の宮田麻理子委員長は欠席であったので、事前提出された資料の確認を行っ

た。生科連の定例会議に出席し、学会との連絡を行う他、高校の生物学教育用語設定や、生物教育・大学入試問題検討などに参加する計画が示された。

- 21) 神経科学分野における霊長類を対象とする実験ガイドラインの策定に関する専門委員会の中村克樹委員長は欠席のため、資料確認をした。「マカクザルおよびマーモセットを用いた神経科学や行動実験に関するガイドライン」の作成状況の報告と、英語版の準備計画が示された。

以上